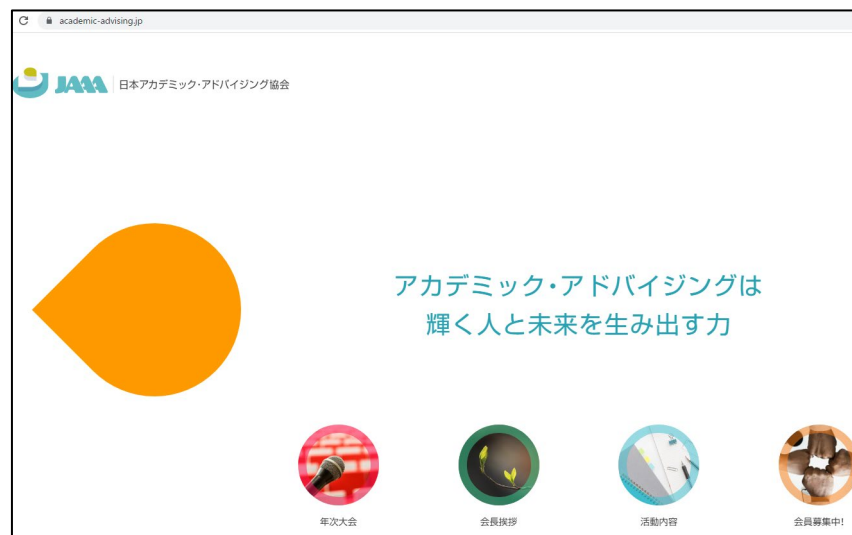


# 分野横断の学びを豊かにする アカデミック・アドバイジングとは

愛媛大学教育・学生支援機構 清水栄子

# 日本アカデミック・アドバイジング協会

- 目的：スチューデント・サクセスを促すアカデミック・アドバイジングの理論と方法の実践論を日本の高等教育において確立し、普及する
- 研修会「アカデミック・アドバイジングの組織化ー『連携』するアドバイジングを目指してー」（2025年2月15日愛媛大学にて）



<https://academic-advising.jp/>

# 構成

1. アカデミック・アドバイジングとは
2. 分野横断の学びとは
3. アカデミック・アドバイジングのかかわり方
4. 分野横断の学びを豊かにするためのアドバイジング

# アカデミック・アドバイザーとは

- 学生自身による将来の目的・目標の決定とその達成に向けて、担当者が途中段階のアセスメントを行いながら学生個人のニーズに沿った支援をすること。
- 学生が人生やキャリアの目標を明確にし、その目標を実現するための教育プランを開発するのを支援する継続的なプロセスである。
- スチューデント・サクセスを促す支援とも言われる。
- アドバイザーとの対話は、学生の自己決定能力、対人関係能力、問題解決能力などの促進に影響を与える。
- アドバイザーと学生による信頼関係に基づく支援である。

(JAAA,2021:Winston, Jr. R. B., Enders, S. C., & Miller, T. K. (Eds.) 1982:Kuhn, 2008: Kathy, 1998:O'Banion, 1972)

# スチューデント・サクセス

- 学生にとっての好ましい／望ましい結果  
優秀学生として卒業、4年間で卒業する、希望の職業に就く、社会人としての態度を身につける。

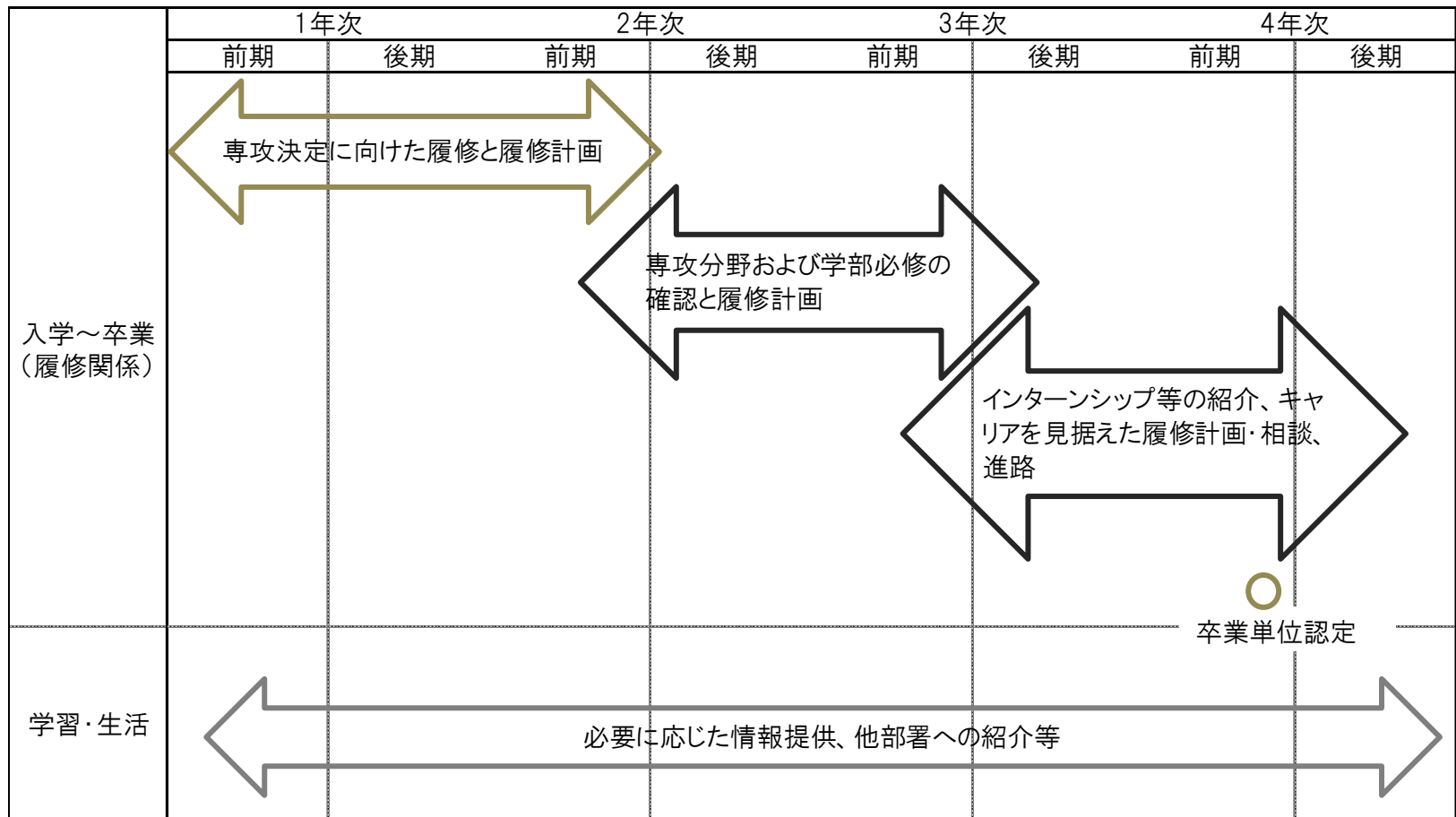
(Stephen, Wallace and Wallace, 2016)

- 広義には、学業成績、学びを目的とした活動への参画、大学生生活に対する満足感、学生が望む知識・スキル、能力の獲得、継続力と教育的目標の達成を指す。
- 学生が大学進学準備を整え、無事に卒業できるようにすることは、大学の管理職にとって優先課題である。

(Kuh, Kinzie, Buckley, Bridges, & Hayek, 2006)

アカデミック・アドバイザーはスチューデント・サクセスのために重要な役割を担っている (Kuhほか, 2008)。

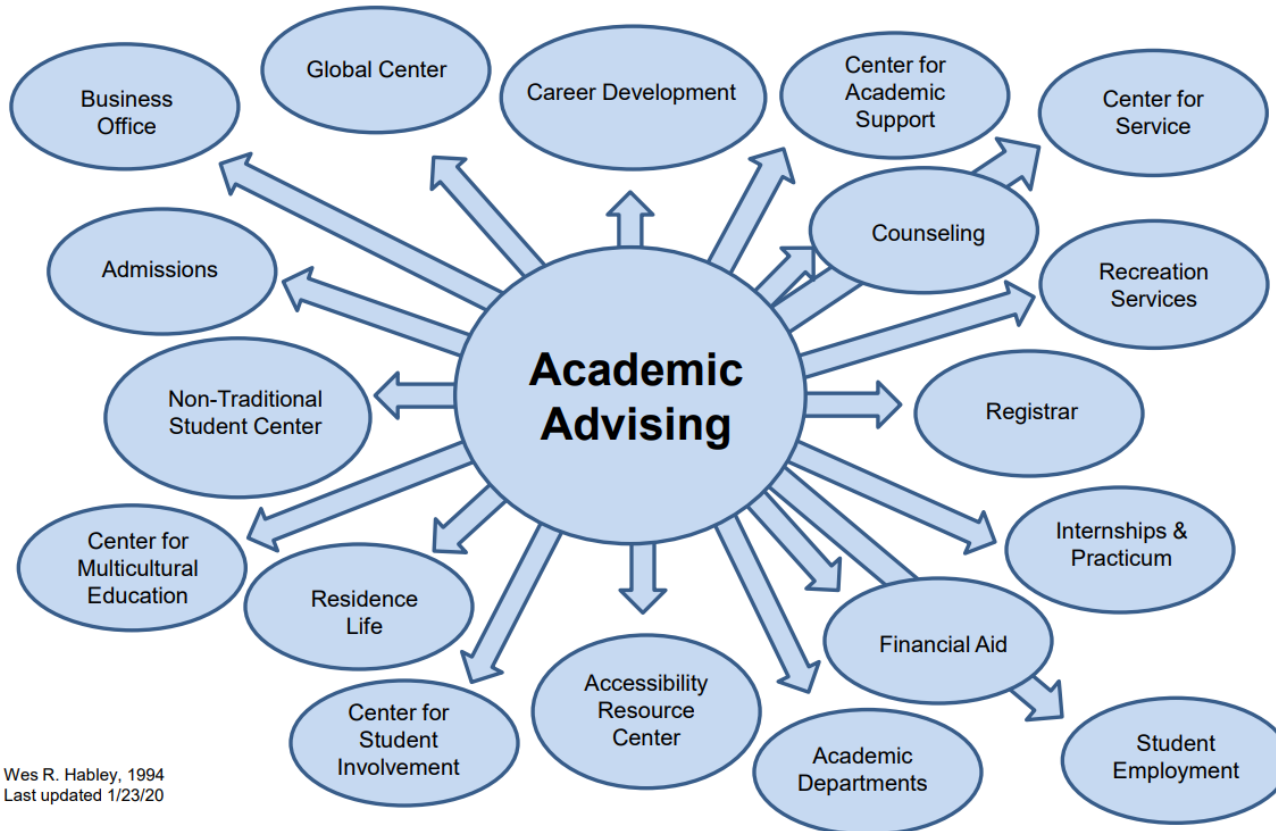
# 在学中のイメージ



清水(2015)

# 部署と部署をつなぐ

Advising is the “hub of the wheel”



Wes R. Habley, 1994  
Last updated 1/23/20

# アカデミック・アドバイザーの目的・機能

1. 学生が自分の人生の目標と一致した教育計画を立てられるよう支援する。
2. 学業の進展と学位取得の要件に関する正確な情報を学生に提供する。
3. 学業上の方針や手続きについて学生が理解できるように支援する。
4. 学業面での成功のために、学生が学内のリソースにアクセスできるように支援する。
5. 学生が学習上および個人的な問題を克服できるように支援する。
6. 学生の学業達成や適切な介入を阻害する可能性のある組織的状况および個人的状況を特定する。
7. 学生の学習・教育上のニーズ、成績、希望、問題点などに関する入手可能なデータを検討し、利用する。
8. 学生が要求する個人的な関わりを提供し、大学と学生を結びつけることにより、学生の定着率を高める。



# アカデミック・アドバイザーに必要とされる能力

## 「概念 (Conceptual)」

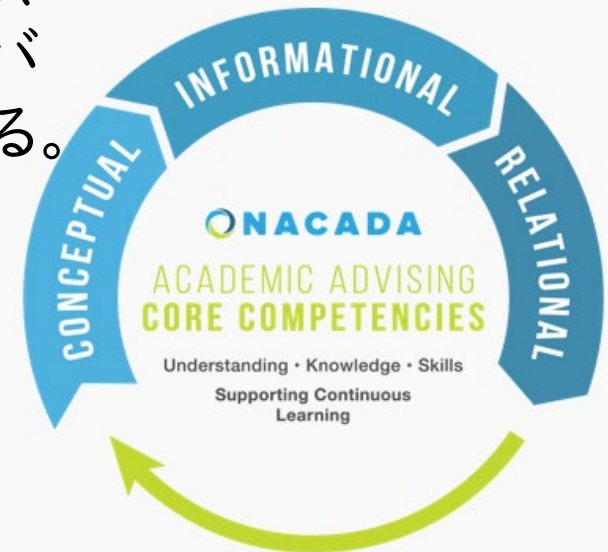
- ・アカデミック・アドバイジングを実施するうえでの文脈を提供
- ・効果的な助言を提供するために、アカデミック・アドバイザーが理解しておくべき考え方や理論が含まれる。

## 「情報 (Informational)」

- ・アカデミック・アドバイジングの内容を提供
- ・所属大学で学生を支援するためにアドバイザーが習得しておくべき知識が含まれる。

## 「関係 (Relational)」

- ・アカデミック・アドバイザーが他の2つの構成要素から概念や情報を伝えるための技能を規定する。



<p>概念 (Conceptual)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高等教育におけるアカデミック・アドバイジングの歴史と役割</li> <li>2. NACADAのアカデミック・アドバイジングに関する基本的価値観</li> <li>3. アカデミック・アドバイジングに関連する理論</li> <li>4. アカデミック・アドバイジングの方法と戦略</li> <li>5. アカデミック・アドバイジングの期待される成果</li> <li>6. 公平で包摂的な環境の維持</li> </ol>
<p>情報 (Informational)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所属機関の歴史、使命、展望、価値観、文化</li> <li>2. カリキュラム、学位プログラム、その他の修学要件と選択肢</li> <li>3. 所属機関における固有の方針、手続き、規則、法規</li> <li>4. 個人情報保護や守秘義務を含むアドバイジングの実践に係る法的基準</li> <li>5. 多様な学生集団の特徴、ニーズ、経験</li> <li>6. 学生の成功を支援する学内外のリソース</li> <li>7. アカデミック・アドバイジングに利用できる情報技術</li> </ol>
<p>関係性 (Relational)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アカデミック・アドバイジングに対する自身の哲学を明確に述べる</li> <li>2. 信頼関係を形成し、アカデミック・アドバイジングの関係を構築する</li> <li>3. 包摂的な敬意を払った態度でコミュニケーションをとる</li> <li>4. 成功をもたらすアドバイジングを計画し実践する</li> <li>5. 学生にカリキュラムの論理や目的をよく理解させる</li> <li>6. 問題解決、意思決定、意味づけ、企画立案、目標設定を支援する</li> <li>7. 自分自身や自身のアドバイジングの実践に関する評価や能力開発に継続的に取り組む</li> </ol>

# 分野横断の学びとは

- ・学問分野の境界を越えて能力を開発し、2つ以上の学問分野の知識を統合して、ある現象を説明したり、問題を解決したり、成果物を創出したり、新たな疑問を提起したりすることを目的とする。
- ・単一の学問分野では不可能であったり、考えられなかった方法で、新たな研究領域、新たな方法論、新たな理論を開拓し、従来の学問分野を刷新する。

# 分野横断の学びとは

米国の事例 (Interdisciplinary studies)

1. 単一の学問分野では解決できない問題に取り組む学びと意味づける。
2. 学びのプログラムとして、メジャーやマイナーでの履修、共通教育での履修、仕事や社会のフィールドでの体験・実習、優等コースでの履修、を設けている。
3. 独自の学位プログラムとして設計開発する組織をもつ大学は少数である。
4. プログラム設計の目標の多くは学びの対象とする主題・問題・現象の広がりへの理解に寄与する学問分野を統合することにある。
5. 既存の専門分野の批判的思考に意味を見いだす考えもあるが、多くは、現実世界に多元的にかかわる学問分野のありようを知る学びとなると期待されている。

([StateUniversity.com https://education.stateuniversity.com/pages/2106/Interdisciplinary-Courses-Majors-in-Higher-Education.html#ixzz8tUd0AyLu](https://education.stateuniversity.com/pages/2106/Interdisciplinary-Courses-Majors-in-Higher-Education.html#ixzz8tUd0AyLu))

# 分野横断の学びの事例 (ウエストチェスター大学)

- Interdisciplinary Studies (IDS)  
学位取得プログラムの策定に深く関わりたい学生のために設計された、ユニークで学際的、柔軟かつ個々のニーズに合わせた学位取得プログラム

次のような学生に最適

- 専攻を探しているが、「ぴったり合う」ものが見つからない学生
- 既成概念にとらわれない思考をする学生
- WCUに在籍しながら、広告、不動産、動物科学、持続可能性政策など、提供されていない分野を専攻したい学生
- 専攻分野の名称ではなく、専攻分野で学んでいること(およびカリキュラムを履修する中で習得し、磨くことができるスキルセット)に興味がある学生
- 専攻分野を登録していない学生で取得単位数が多い学生
- 現在専攻分野を登録しているが、学位取得に必要な要件を修了できない(または修了しないことを選択した)学生

# 分野横断の学びの事例 (ウエストチェスター大学)

- アカデミック・アドバイジング

学生一人ひとりのプログラムが、その学生個人と同じくらい個性的で多様であるため、分野横断的研究プログラムを学生が成功裏に修了するには、アカデミック・アドバイジングが重要な役割を果たす。そのため、アカデミック・アドバイザーとの定期的な相談が不可欠である。

- 基本的に、学生は自らの教育経験に責任を持つ。
- 最終的には、学位を取得するために必要な条件をすべて満たすことは学生自身の責任となる。

# 分野横断の学びの事例 (ウエストチェスター大学)

- 主専攻 (Major) におけるアカデミック・アドバイジング
  - プログラムの要件とWCUの卒業要件について説明する。
  - アドバイジングガイドを一緒に作成する (現在の履修科目・これまでの履修科目)。
  - 1年生には、クラス分けテストと学生の希望を考慮した前期のスケジュールを組む。
  - 少なくとも学期に1回面談を実施する (必要性がある場合は頻繁に)。
- 副専攻 (Minor) におけるアカデミック・アドバイジング
  - 学位取得要件の一部として、少なくとも1つのマイナー (副専攻) を修了することが義務付けられている。
  - 学生は、マイナーの要件をすべて修了する責任がある。

# 分野横断の学びの事例 (ウエストチェスター大学)

アドバイザーは

- 学生がデザインした教育プログラムの準備と実行について相談に応じ、
- 大学の方針や手続きに関する情報源となり、
- 卒業要件を明確に説明し、
- 卒業後の選択肢について話し合い、検討するためのリソースを提供する。

学生が積極的に取り組み、適切なアカデミック・アドバイジングを受けることで、学生はプログラムや計画について、十分な情報を得た上で意思決定を行うことができる。



# 分野横断の学びの事例（新潟大学）

## アカデミック・アドバイジングとは？

アカデミック・アドバイジングとは、学生自身の学修目的や将来の目標決定・達成を、継続的に支援することです。NICEプログラムでは、アカデミック・アドバイザー（AA）が、マイナー・プログラムの履修指導を中心としたアカデミック・アドバイジングを提供しています。

## 具体的なサポート内容

マイナーを  
はじめたいとき

**マイナーの学修に  
関する情報提供が  
受けられます**

「マイナーについてくわしく説明してほしい」、「自分の考えていることは、マイナーで取り組めるのか」、「マイナーと学部を両立できるのか不安」など、マイナーの学修に関する質問・疑問に答えます。

「分野横断デザイン」  
履修中

**探求課題でわからない  
ことがあったとき、  
アドバイスが受けられます**

「マイナーでどんなことに取り組めばいいかわからない」、「マイナーとして履修する科目がうまく選び出せない」、「マイナー・プログラムの履修計画を立ててみたので見てほしい」など、学生のみなさんが自分の興味・関心に沿った学びがデザインできるようにサポートします。

マイナー・  
プログラム履修中

**フォローアップが  
受けられます**

マイナー・プログラムを履修するためのペースメーカーとして、アドバイジングを利用できます。また、「マイナーの方向性を変更したい」、「科目の履修が計画通りにいかない」など、履修途中の悩みにも対応しています。

「分野横断リフレクション」  
履修中

**探求課題でわからない  
ことがあったとき、  
アドバイスが受けられます**



学内の他部署や教員と連携を取り、学生のみなさんの学びを多面的に支えます。  
アカデミック・アドバイジングは、「NICEプログラム室（学修相談室）」で受けることができます。

# 分野横断的な学びのためのアカデミック・アドバイジングの前提（新潟大学）

- 分野横断的学修の基礎となるのは、学生自身の興味・関心および社会に対する問題意識（社会の現状に対する違和感）である。
- 学生が自らの興味・関心や問題意識から探究課題を設定する過程において、自分のもつ「資源」（それまでの教育課程における正課内外での経験、人間関係、資格等）に気づく必要がある。
- 学生が自分のもつ「資源」に気づけていないことは、分野横断的学修をかたちづくる上での「障壁」となる。
- アカデミック・アドバイザーは、対話や可視化を通して学生が「障壁」を乗り越えるための支援を行う。

# アカデミック・アドバイジング実践 (新潟大学)

- アカデミック・アドバイザーは、学生の興味・関心や問題意識に関して、5W1Hの問いかけを行うだけでなく、学生の話した内容を言い換えたり、類似の例を提示したりするなどして、学生が自分の思考を言語化し、自らの資源に気づく余地を作る(問いに対して答える、という単調なやりとりに終始しないよう心掛ける)。
- アカデミック・アドバイザーは、対話の内容をホワイトボードに書き出して可視化する。書き出した項目について、囲み枠をつけて分類しキーワードを設定したり、矢印によってつながりをつけたりして整理する(グラフィック・レコーディング)。
- 可視化と整理を行った段階で、課題設定を明確化し、設定された課題がどのような学問分野・専門領域につながりそうか、分野横断の可能性について問いかける。

# アカデミック・アドバイジング実践 (新潟大学)

- 学生がつながりをつけられなかった分野についてアカデミック・アドバイザーが提案をする場合は、選択肢のひとつとして提示する。
- 学生が分野横断のイメージが持てない場合には、設定された課題に関する具体的な科目を例示し、当該科目のシラバス記載内容を確認することを通して、設定課題の分野横断性を理解できるように促す。
- 学修計画を立案するにあたり、シラバス検索システムを用いて履修候補科目を選択する必要がある。アカデミック・アドバイザーは、シラバス検索システムの効果的な使い方（膨大な開講科目に絞りをかけ、自分の関心に一致する科目を検索する方法）を案内する。
- アドバイジング終了時に、学生が「マイナー学修デザイン」の記述に役立てるよう、ホワイトボードをスマートフォンで撮影するよう促す。

# アカデミック・アドバイジングのかかわり方

- 学生の学業上およびキャリア上の目標、興味・関心や問題意識を引き出す。
- 学生が分野横断のイメージができない場合には、学生の目標や興味に関連する分野や関連科目を提示する。
- 必要なリソースを提示する。
- 学習計画を一緒に作成する（新入生）。
- 学生が作成した教育プログラムの準備と実践について相談に応じる。
- 主専攻・副専攻の場合は、それぞれの修了要件を説明する。
- 必要に応じて面談を実施する（少なくとも学期に1回）。

# アカデミック・アドバイザーの役割

- 主専攻および副専攻特有の条件のほか、学生の決断に必要な情報を提供する（所属大学のカリキュラム、卒業要件、大学の方針・手続き等）。
- 学生の興味・関心を言語化してもらえらるるようように導く。
- 教員アドバイザーはより専門的な視点から、専門職アドバイザーは広い視点から学生を支援する。学生アドバイザーは自身の経験に基づいて支援を提供する。
- 学生の理解を高めるよう説明する、内容を可視化する（グラフィック・レコーディング）。
- 学生の状況を的確に判断できるよう観察する。
- 学生に必要なサポートを提供するために他部署と連携する。
- 学生が自身のStudent Successをイメージし、その達成に向けた必要に応じた継続的な支援の提供する。

# 分野横断の学びを豊かにするための アカデミック・アドバイジング

- アカデミック・アドバイザーのみの尽力では限界がある。全学的なサポート体制が必要。
- 主専攻・副専攻、専門職・教員の役割をはじめとするアカデミック・アドバイジングの理解を促すために「アカデミック・アドバイジング・シラバス」を作成・公表する。
- アドバイジングに有効なツールの開発・提供する（分野横断の履修ツール、カリキュラムマップなど）。
- アドバイザーの継続的な能力開発。



# 参考文献

- Corbacho, A. M., , Minini, L., Pereyra, M. González-Fernández. A. E., Echániz, R. Repetto, L., Cruz, P. Fernández-Damonte, V., Lorieto, A., Basile, M. (2021) Interdisciplinary higher education with a focus on academic motivation and teamwork diversity, *International Journal of Educational Research*
- Kuhn, T. (2008). Historical Foundations of Academic Advising. In Gordon, Habley and Grites. *Academic Advising: A Comprehensive Campus Process*. San Francisco: Jossey-Bass.
- NACADA Academic Advising Core Competencies Model(2018 <https://nacada.ksu.edu/resources/pillars/corecompetencies.aspx>)
- 日本アカデミック・アドバイジング協会:<https://academic-advising.jp/>
- 新潟大学アカデミック・アドバイジング<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/aa.html>
- 知識集約型社会を支える人材育成事業(DP)(2024)多様な学びのための学修支援実務者ガイドライン
- ウェストチェスター大学IDS <https://www.wcupa.edu/universityCollege/interdisciplinaryStudies/>
- UNESCO (2002) The role of student affairs and services in higher education , <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000128118>
- <https://www.wcupa.edu/universityCollege/interdisciplinaryStudies/advising.aspx>